KIORITZ

取 扱 説 明 書

Go!Go!共立自走式キャリー動噴

VSC357G-8B

⚠ 警　告
ご使用前に、必ず取扱説明書をよく読んで正しく作業してください。 取扱説明書の指示内容を守ってください。 守らなかった場合は、死亡または重傷事故を起こす恐れがあります。

⚠ 注　意

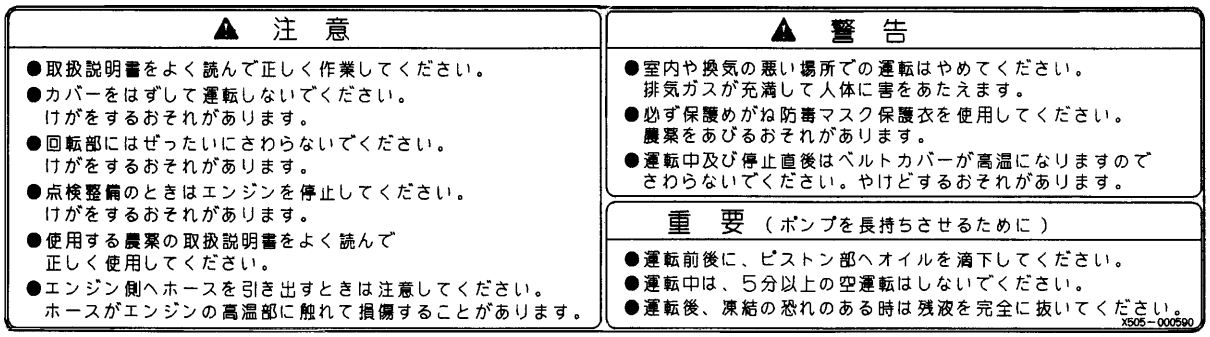
・この取扱説明書は、いつでも読めるように、紛失、汚損の恐れのない、すぐ取出せる所に必ず保管してください。
・この取扱説明書が損傷により読めなくなった場合、紛失した場合は、販売店より新しく取扱説明書を購入し、常に参照できるよう保管してください。
・この取扱説明書で解説している機械を貸与する場合、借りて作業をする人に、この取扱説明書を読ませ、充分な指示、訓練を行なった後、この取扱説明書とともに機械を貸与してください。
・製品を譲渡される場合は、この取扱説明書を製品に添付してお渡しください。
・ご不明なことや、お気づきのことがございましたら、販売店にご相談ください。

警告表示ラベルについて

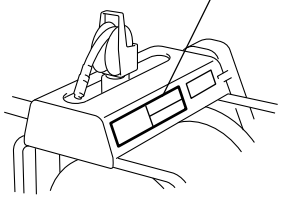
● この取扱説明書で解説されている機械には、下記の「警告表示ラベル」が貼付してあります。ご使用前に下図で確認し、ラベルの意味を理解してください。

● ラベルが摩滅したり破損して内容が確認できなくなった場合や、はがれて紛失した場合は、販売店から新しくラベルを購入し、下図に指示してある箇所に張り、常にラベルが確認できる状態を維持してください。

警告表示ラベル

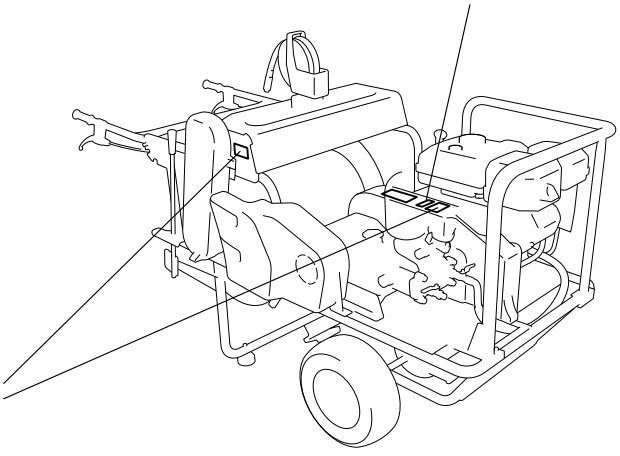


部品番号；X505-000590





部品番号；890016-01100





部品番号；890157-55630

重要なお知らせ

共立自走式キャリー動噴をお買い上げいただき、ありがとうございます。

● この取扱説明書は、機械の正しい扱い方と、簡単なお手入れおよび守って頂きたい安全に関する事項について説明しています。
- 本書に記載されている仕様や解説あるいは説明のために例にあげられている図や内容は、改良のため予告なしに変更することがあります。
- 取扱説明書の内容は製品の標準装備を基本に構成していますが、特別注文品（オプション）やアクセサリを使用する場合も含まれます。
- 単位はＳＩ単位を使用しています。（　）内は参考値ですので数%の換算誤差がある場合もあります。

● ご使用まえにこの取扱説明書をよくお読みいただき安全で快適な作業をしてください。
- お読みになった後も身近な所に保管し、いつでも読めるようにしてください。
- また、この機械を貸与または譲渡される場合は、この取扱説明書を機械と一緒にお渡しください。

- 本書では、安全上重要な事項を⚠で示し、次のように表示しています。
- 必ず守ってください。

● エンジンについては、付属のエンジンの取扱説明書に従ってください。

● 機械の使用目的について
- この機械は日本国内でのみ使用してください。
- この機械は液剤散布作業に使用し、それ以外には使用しないでください。
- 機械を使用目的以外の作業に使用したり、改造しないでください。また、その場合には保証の対象になりません。
（詳細は保証書をご覧ください。）
- この機械で公道は走行できません。
- なお、この機械の品質・性能上あるいは安全のために、使用部品を変更することがあります。その際には本書の内容および図などの一部が、機械と一致しない場合がありますのであらかじめご了承願います。

⚠ 危　険

その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものです。

⚠ 警　告

その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負う可能性があるものです。

⚠ 注　意

その警告に従わなかった場合、ケガを負う恐れのあるものです。

丘に左斜線の入ったこの記号は、表示されているものが全て禁止されていることを表わします。

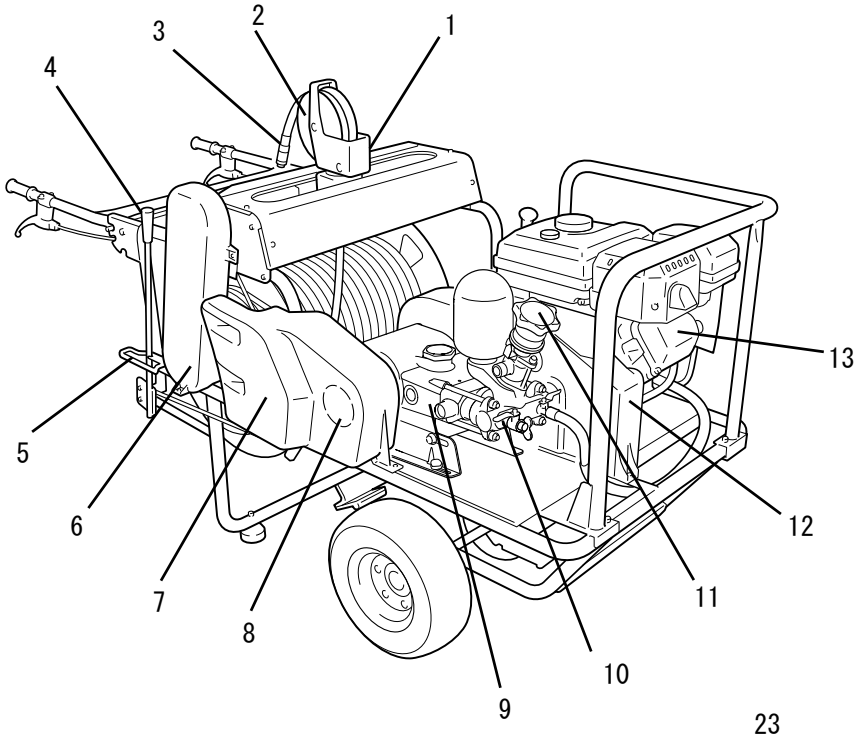
重　要

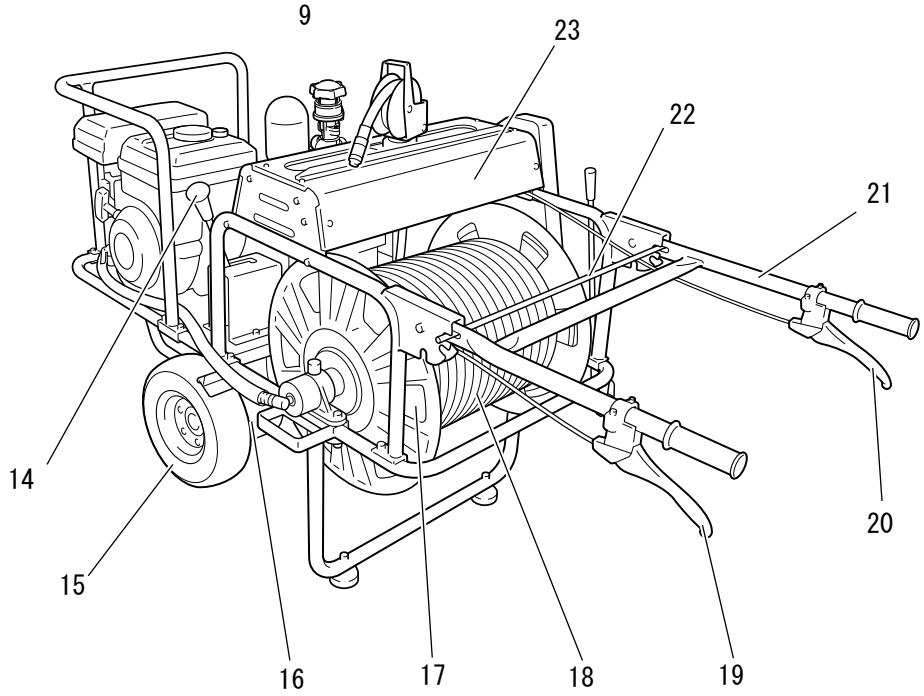
重要として囲まれた文章は、この取扱説明書で説明されている機械の使用、点検、保守・保管に関する注意事項です。

目 次

各部の名称…… 4
正しい作業のために…… 6
組　立……11
運転前の準備……11
操作方法……13
輸送・移動時の注意……16
点検・整備……18
保管……22
かくはん機を取付ける場合……23
不具合と対策……24
仕　様……26

各部の名称

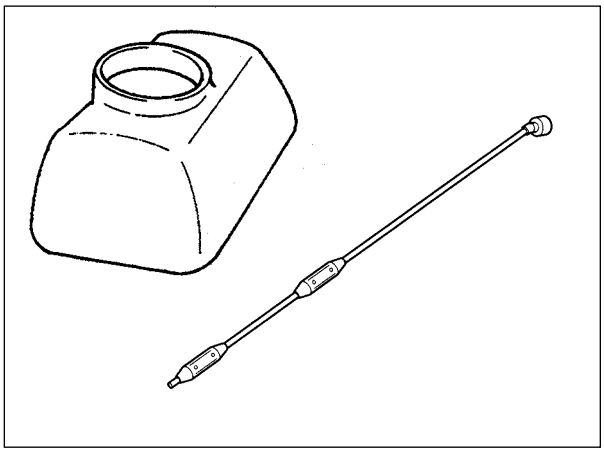




付属部品一覧表					
名　　称	個数	名　　称	個数	名　　称	個数
M8 ボルト	2	オイラ	1	取扱説明書（本機）	1
吸水ホース	1	吸水ホース口金パッキン (3/4)	1	取扱説明書（動力噴霧機）	1
余水ホース	1	吐出ホース口金パッキン (1/4)	2	取扱説明書（エンジン）	1
結束バンド	1	保証書	1		
吸込ストレーナ	1	特別保証書	1		

各部の名称

1. ホースガイド ――― スプレーホースの巻取り、引出しのガイドです。
2. 案内ローラ ――― スプレーホースの巻取り、引出しに使用します。
3. スプレーホース ――― 散布用のホースです。
4. ホース巻取りレバー ――― スプレーホースの巻取りをします。
5. ストッパ ――― スプレーホースの巻取り、ホースリールブレーキおよび解除などの切替えをします。
6. チェーンカバー ――― チェーンをガードするカバーです。
7. リールベルトカバー ――― ホースリールのＶベルトをガードするカバーです。
8. かくはん用動力取出し口 ――― オプション部品を追加することにより、市販のかくはん機を装着できます。(かくはん機は右回転用)
9. 動力噴霧機（動噴） ――― 薬液を吸込み、加圧し送り出します。
10. 動力噴霧機散布コック ――― 散布作業時「開」にします。
11. 調圧ダイヤル ――― 動力噴霧機の吐出圧力を調整します。
12. ポンプベルトカバー ――― 動力噴霧機、走行用のＶベルトをガードするカバーです。
13. エンジン ――― ガソリンエンジンです。
14. ポンプクラッチレバー ――― 動力噴霧機の運転・停止を行ないます。
15. 走行タイヤ ――― エンジンを始動し、走行クラッチレバーを握ると走行します。
16. ミッション ――― エンジン回転を減速させ、走行タイヤを駆動させます。
17. ホースリール ――― スプレーホースの巻取りに使用します。
18. スプレーホース ――― 散布用のホースです。
19. 走行クラッチレバー ――― 握ると走行します。
20. ブレーキレバー ――― 握ると走行タイヤを停止させます。
21. ハンドル ――― 移動するときに起こして使用します。
22. ハンドル固定レバー ――― ハンドル固定レバーを握るとハンドルが下に折りたためます。
23. トラバースカバー ――― スプレーホースの並列巻装置をカバーします。



お客さまがご用意するもの

スパナ（各種）、ノズル、薬液タンクなど

● ノズルの選択について
ノズルの吐出量が動力噴霧機の吐出量より多いと適切な散布作業ができません。ノズルを選ぶときは仕様を確認し、余水ホースから戻る薬液量が全吐出量の 10%以上になるようにしてください。
ご不明な点は、お買い求めの販売店にお問い合わせください。

正しい作業のために

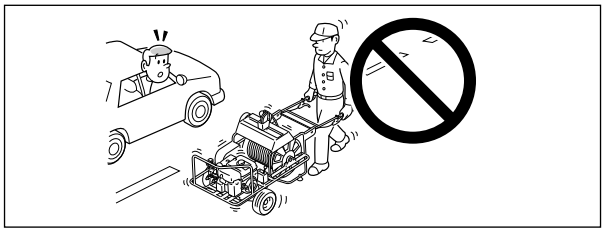
⚠ 注　意

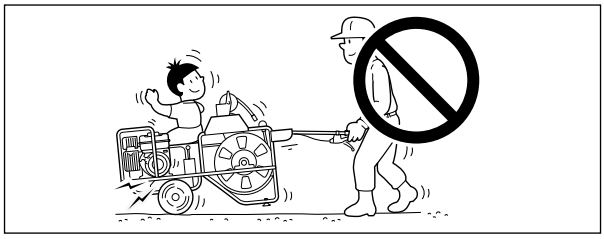
・作業計画を立て、この取扱説明書を参照し、適切な部品を選んでください。作業に合わない部品を使うと、動力噴霧機が故障したりご利用になる人がケガをすることがあります。
ご不明な点は、お買い求めの販売店へお問い合わせください。

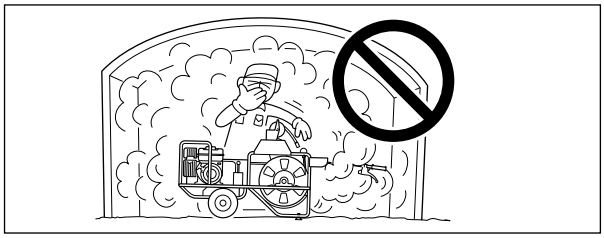
重　要

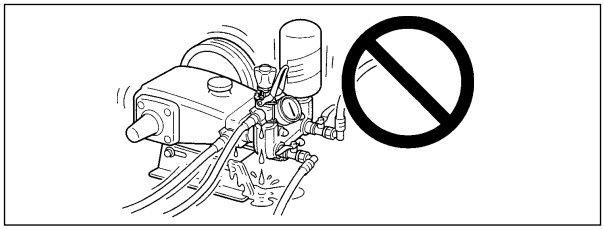
この動力噴霧機の仕様は一般農薬用です。特殊農薬や多種農薬混合を使用する場合は、お買い求めの販売店へお問い合わせください。

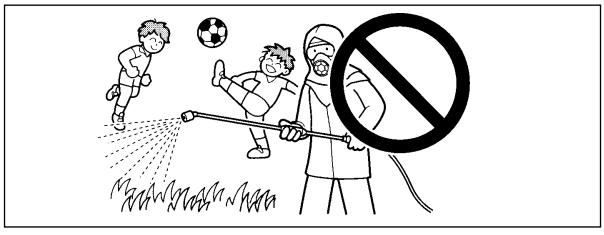












⚠ 警　告

このような人は作業をしないでください。
- 酒気をおびた人
- 妊娠している人
- 16 才未満の人
- 未熟練者
- 過労・病気・薬物の影響、その他の理由により正常な作業ができない人

☆事故や重症を負う原因となります。

⚠ 警　告

・本機で一般道路を走らないでください。
☆事故の原因となります。

⚠ 警　告

・本機に人や荷物を乗せて走行しないでください。
☆転落事故や重症を負う原因となります。

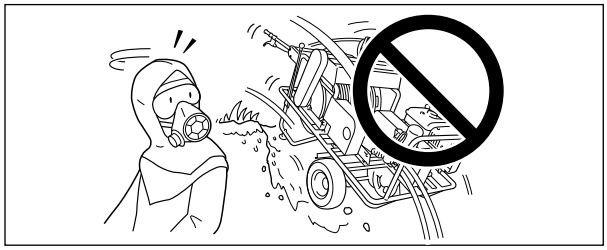
⚠ 警　告

・エンジンの排気ガスには、死に至る有毒なガスが含まれています。室内や通気の悪い場所でエンジンを始動しないでください。
☆排気ガスによる中毒事故の原因となります。

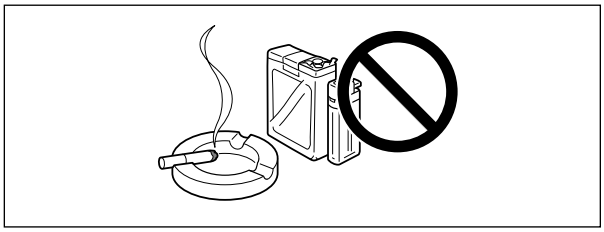
作業前の点検

●各部品がきちんと取付けられているか確認してください。ホースの取付けなど配管部が正しく締付けられていないと、空気の吸込みや内部液が漏れることがあります。

●人が近くにいないことを確認してください。



●本機を不安定な場所や転倒の恐れがある傾斜地に置かないで下さい。



⚠ 警　告

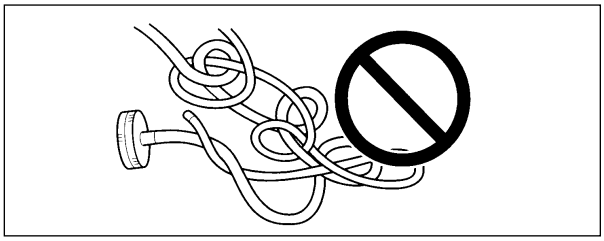
・燃料を扱うときは、絶対にタバコを吸ったり、火気を近づけないで下さい。

☆燃料に引火して火災を起こしたり、火傷を負うことになります。

作業中の注意

重　要

5 分間以上、カラ運転を行なわないでください。動力噴霧機の寿命を縮め、故障の原因となります。



●ホースが絡まったり、ねじれたりしないように気をつけて下さい。

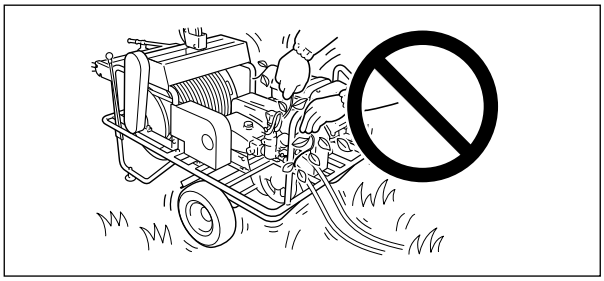
⚠ 注　意

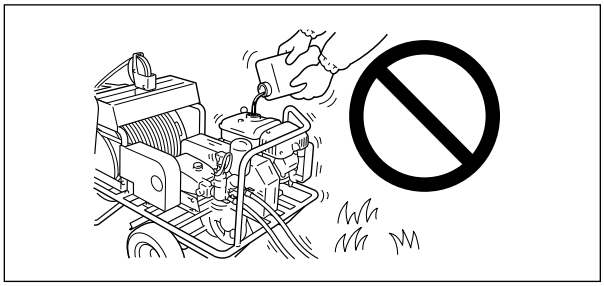
カバーをはずして運転しないで下さい。
けがをするおそれがあります。

重　要

専用の給水栓や貯水槽から吸水し、長時間使用するとエアチャンバの空気が水に溶け、抜けてしまうことがあります。動力噴霧機の故障の原因となりますので、2 時間毎に必ず吸水ストレーナを水から出し、余水ホースから水が出なくなるまで運転して下さい。

●本機やエンジンに絡み付いた草などを取除くときは、必ずエンジンを停止して下さい。

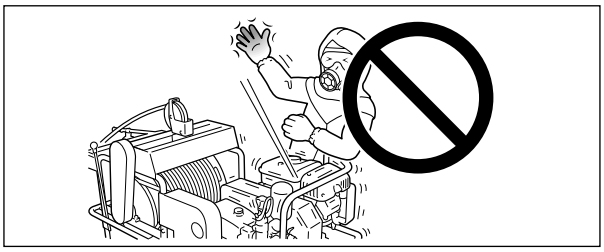


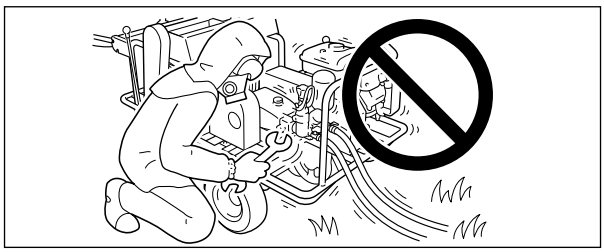


⚠ 警　告

・燃料を補給するときは、必ずエンジンを停止してエンジンが冷えてから行なって下さい。
・燃料給油時はこぼさないように注意して下さい。（燃料タンクの口元まで給油しないで下さい。）燃料をこぼした場合は、すぐに拭き取って下さい。
・燃料タンクキャップを確実に締付けて下さい。
・燃料タンクや燃料ホースから燃料の漏れや、にじみがある場合は直ちに使用を中止し、お買い求めの販売店に修理を依頼して下さい。

☆こぼれた燃料に引火して火災や火傷の原因となります。





●運転中は回転している部品（Vベルトなど）や高温部（エンジン、マフラなど）に触れないようにしてください。停止直後のエンジン、マフラはたいへん高温です。手を触れないようにしてください。

●修理、清掃などの作業を行なうときは、必ずエンジンを停止してください。
●指定以外の部品を使用したり、本機の改造を行なったりしないでください。

⚠ 注　意

農薬使用上の注意

・ 散布時は、農業用マスク、手袋、長ズボン、長袖の作業衣などを着用してください。
農薬に直接触れないよう注意してください。
・ 作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするとともに洗眼してください。
・ 農薬が目に入らないように注意してください。
・ 誤飲、誤食に注意してください。誤って飲み込んだ場合は、吐き出し、直ちに医師の手当てを受けてください。また、農薬使用中に異常を感じたときは、直ちに医師の手当てを受けてください。
・ また、農薬の種類によっては、
☆農薬が目に入った場合は直ちに水洗し、眼科医の手当てを受けてください。
☆かぶれを生ずる場合がありますので注意が必要です。また、かぶれやすい人は、使用を控える必要があります。
・ 環境へ配慮した使用が必要です。
☆防除対象作物以外への飛散がないよう注意してください。
・ 農薬は、子供の手が届かない場所に保管してください。

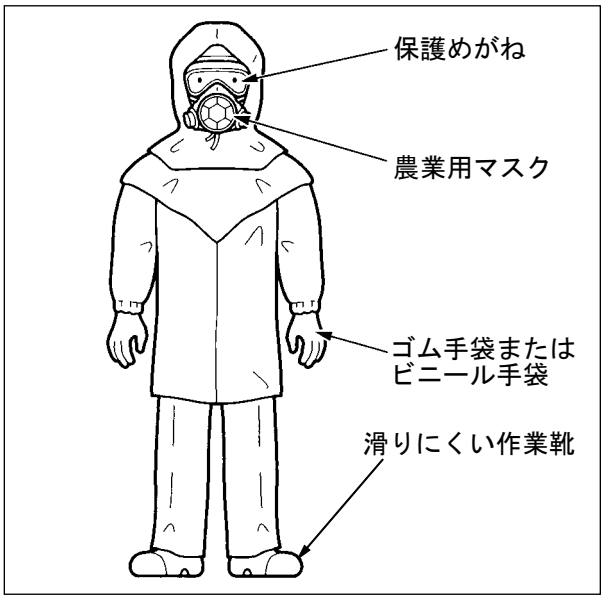
農薬散布について

農薬使用上の留意点

●農薬ラベルをよく読んでください。
農薬の使用にあたっては、農薬ラベルに記載されている事項を確認してから使用してください。
●農薬取締法が改正されました。
平成15年3月の農薬取締法改正にともなう省令に基づく使用基準により
①使用する作物に登録のある農薬を使用すること、②使用濃度（希釈倍率）および面積あたりの使用量、③収穫前使用日数、④使用回数の4点については農薬使用者が遵守する義務が生じています。

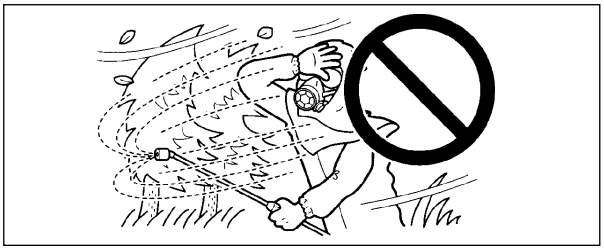
⚠ 警　告

・ 飲料水源・河川・湖沼から直接給水することは避け、専用の給水栓や薬液補給用貯水槽から給水してください。
・ 薬液は残らないように調製し、必ず使い切ってください。
・ 薬害や環境汚染を起こさないよう充分配慮してください。
☆第三者が農薬と知らずに誤って飲み込むなど、重大な薬害事故の原因となります。



重　要

薬剤は濃度が均等になるように溶かしてください。固まりが残ると、ノズルの目詰まりの原因となります。





農薬散布前の注意

- 滑りにくい作業靴を履いてください。
  つま先のあいた靴、サンダル、はだしで散布作業を行なわないでください。
- 農薬を散布する場合、頭、足、その他の外部にさらされる部分を保護する衣服、保護具を身に付け、農薬が皮ふに触れないようにしてください。
- 農薬が浸透しない防水性に優れ、汗をかきにくい通気性のよい衣服を身に付けてください。
- 汗を拭いたり顔を洗うためにタオル、手ぬぐい、水などを用意してください。
- 作業を行なう場所をよく調べ、作業者以外の人、子供、家畜、養蚕、養蜂、他の作物などが近くにないことを確認してください。

⚠ 警　告

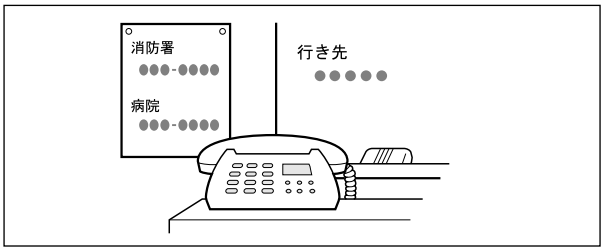
・ 夜間や、視界が悪く暗い場所では、機械を絶対に操作しないでください。
☆誤った操作による事故や、薬害事故を引き起こす原因となります。
・ 風が強いときには絶対に散布を行なわないでください。
☆風向きが急に変わり、予期しない方向へ農薬が飛んでしまうことがあります。

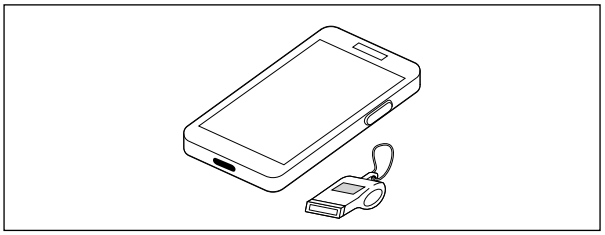
農薬散布中の注意

- 散布作業は、日中を避け、涼しい朝、夕方に行なうようにしてください。気温が上がると農薬が空気中に上昇したり、気化します。また、体力も余計に消耗してしまいます。
- 農薬がからだにかかるのを避けるため、風下の方を向き、風を背中に受けるようにして、後ろ側へ進みながら散布してください。
- 農薬の散布はたいへん体力を消耗します。長時間の作業は避け、２時間を限度としてください。
- 作業をしながらタバコを吸ったり食べ物、飲み物をとったりしないでください。タバコ、食べ物に付着した農薬がからだの中にはいることがあります。

農薬散布後の注意

- 農薬が乾くまでは、立入禁止の表示を置いてください。
- 作業中に着ていた服は、他の衣服とは別に洗ってください。





万一の事故に備えて

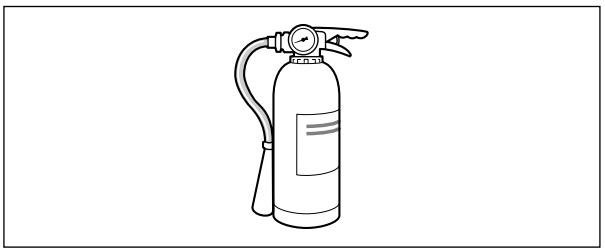
●作業の前に

・万一の事故に備え、電話機のそばの目につきやすい場所に、医療機関、消防署（救急車）の電話番号を明確にしておいてください。
特に消防署への連絡の場合、救急車のための目標地点（住所、目標となる建造物など）も明確にしておくと、的確な連絡に役立ちます。

・単独で作業する場合、どこで作業を行なっているかが他の人にもわかるような方法（携帯電話を持つ、黒板に作業現場をメモするなど）を講じてください。負傷し動けなくなり帰れなくなった場合の対処として有効です。

・作業現場には､呼子（笛）を携帯してください。

●発火に対する備え



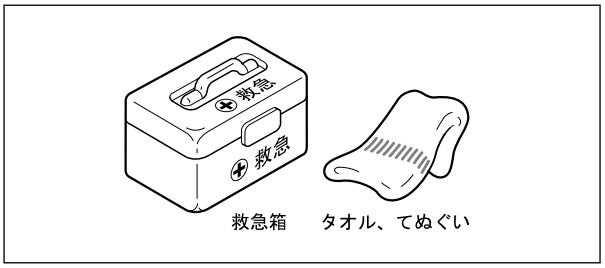
⚠ 警　告

・エンジンから発火または排気口以外から発煙したら、まず機械から離れ、身体の安全を確保してください。
周囲に類焼しないようにシャベルで砂などをかけるか、または消火器で消火してください。

☆あわてて対処しようとすると、火災やその他の障害の拡大のつながります。

● ケガへの備え

・万一のケガへの備えとして、応急手当用品の入った救急箱を用意してください。
出血をともなうケガについては、止血用に汗拭き用のタオルや、てぬぐいなども有効ですので、常時余分に作業現場へ携帯することをおすすめします。



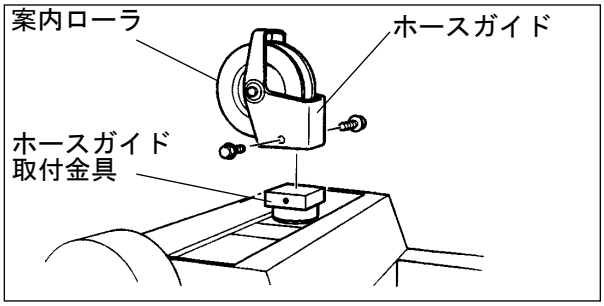


⚠ 警　告

・ 作業中あるいは作業終了後、からだに異常を感じたときは、すぐに医師に相談してください。使用していた農薬の種類を告げてください。

☆処置が遅れることにより、重大な薬害につながることがあります。

組　立

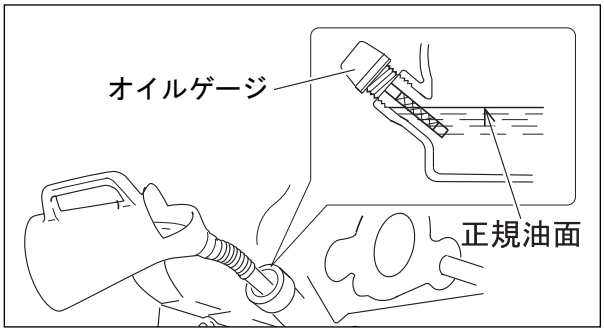


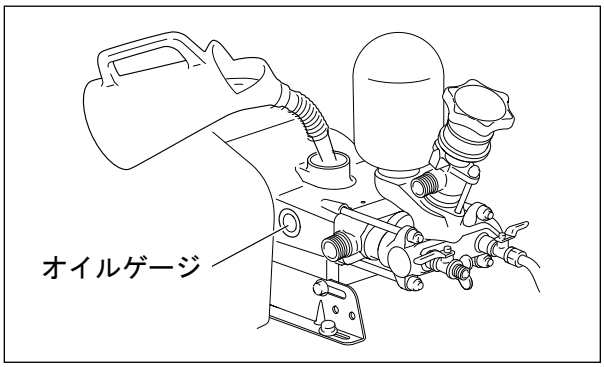
ホースガイドの取付け

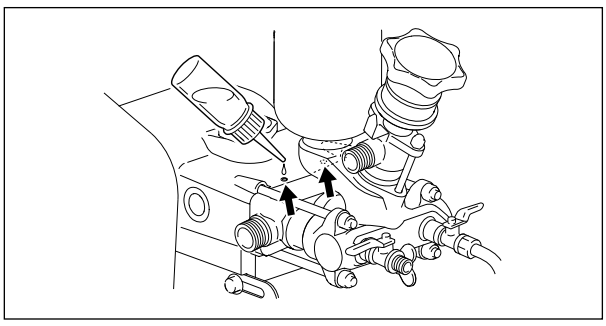
1. ホースガイドを組込み、ホースガイド取付金具に取付けます。
2. スプレーホース先端のヨリモドシとコックを外してから、スプレーホースを案内ローラにそわせてホースガイドに通します。
3. 外していたヨリモドシとコックを取付けてください。

運転前の準備

重　要
●工場出荷時には、動力噴霧機、エンジンにオイルを入れていません。動力噴霧機、エンジンの取扱説明書に従いオイルを給油してから、運転をはじめてください。 ●正規油面より多く入れるとオイルが吹き出ることがありますので注意してください。







各部オイルを点検する

●動力噴霧機、エンジンの取扱説明書に従い、動力噴霧機とエンジンのそれぞれのクランクケースに、オイルが正規油面まで入っているか確認してください。
●オイルの汚れを点検し、汚れがひどい場合には交換してください。

エンジンオイルの補給

●オイルゲージを外し、正規油面までエンジンオイルを入れてください。（正規油面の位置は左図を参照してください）

重　要
使用する前に必ずオイル量を点検し、正規油面までオイルを補充してください。

動力噴霧機の準備

●オイルの補給

1. クランクケース注油口のふたを取り、オイルゲージの中央にあるマークまでエンジンオイルを入れてください。エンジンオイルはSC、SDまたはSE級、SAE＃30を使用してください。

重　要
マークより多く入れると、運転中にオイルが吹き出ることがありますので注意してください。

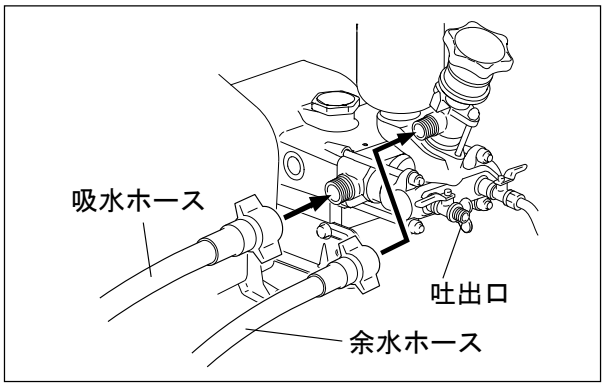
2. 付属のオイラの先を切り、プランジャ給油口から10滴ほど給油してください。給油により、プランジャのシールの寿命が長くなります。

吸水ホース、余水ホースを接続する

1. 接続金具のパッキンを確認して動噴に吸水ホースとストレーナを接続し、ストレーナを水没させててください。
2. パッキンを確認して動噴に余水ホースを接続し、ホース先端を水没させてください。

⚠ 警　告

・ ホースが劣化したり漏れがあるときは取り替えてください。
☆薬害事故を負う原因となります。



⚠ 注　意

余水ホースは結束バンドで固定してください。
☆圧力切替操作時に余水ホースがあばれて薬液をあび、薬害事故を負う恐れがあります。

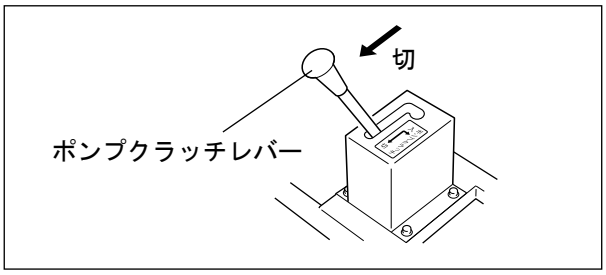
重　要

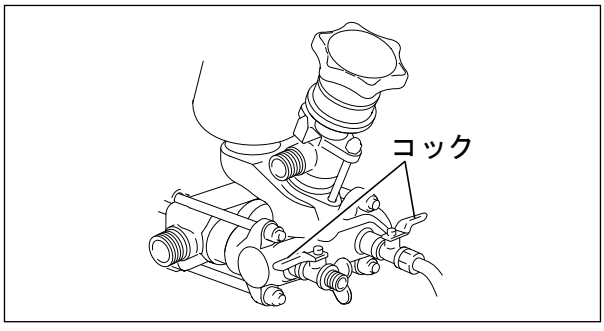
・ホースの接続金具は強く締めすぎないでください。パッキンが損傷する恐れがあります。
・ホースは無理に曲げたり、ねじれがないよう取付けてください。

運転

エンジンの始動まえに

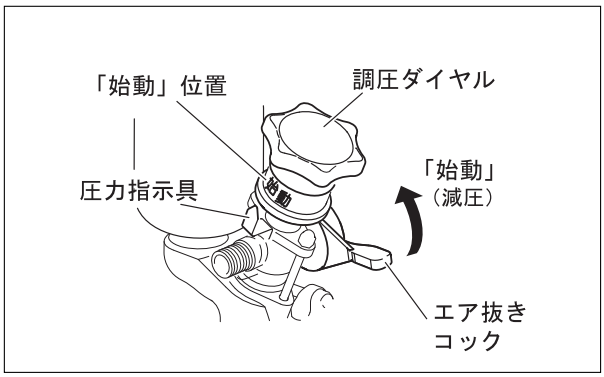
1. ポンプクラッチレバーを「切」にしてください。
2. 吐出口のコックをすべて閉めておきます。
3. 調圧ダイヤルの「始動」の位置を圧力指示具に合わせます。
4. エア抜きコックを「始動」（減圧）位置に合わませます。





⚠ 注　意

・エア抜きコックの操作を行なう時は、エンジン高温部に注意してください。
☆ 火傷を負う原因となります。

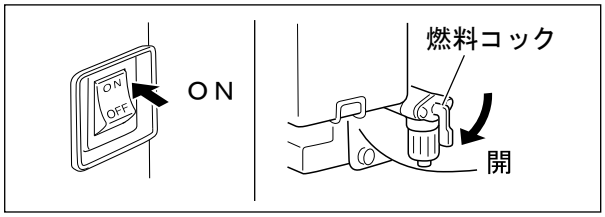


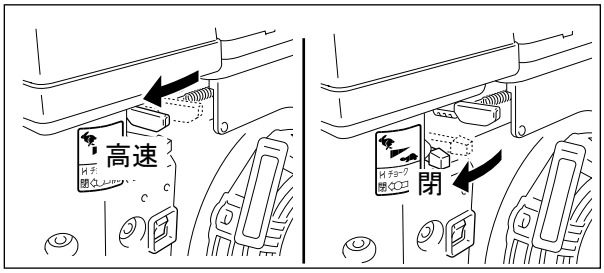
5. 吸水ホースと余水ホースの先端を、薬液の中に入れておきます。

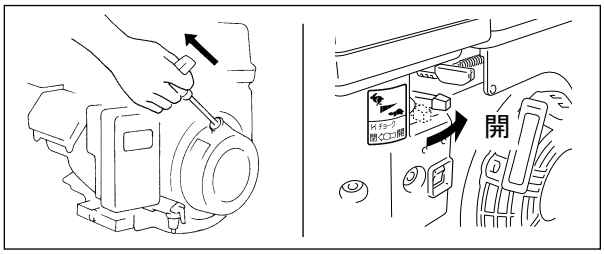
重　要

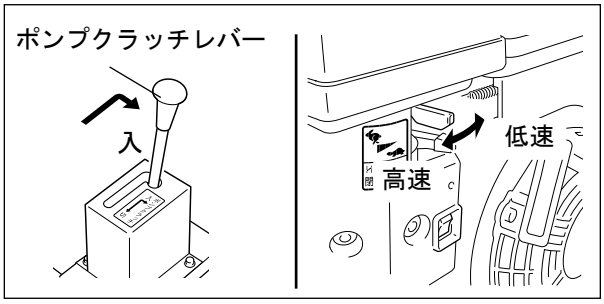
使い始めや長期間使用しなかった場合、エア抜きコックを開いても吸水しないことがあります。この時は吸水ホースのストレーナを外し、ホースに直接水を送り込んでください。（よび水）

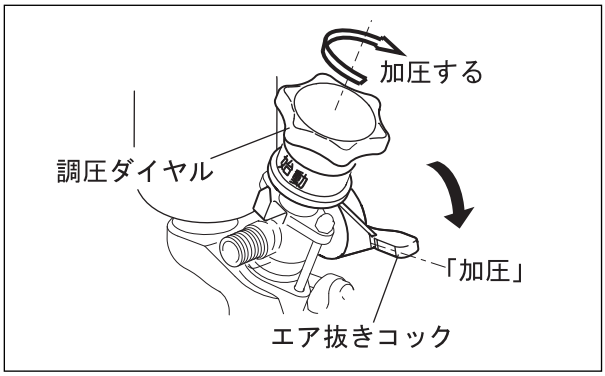
操作方法











重　要
ホースの最高使用圧力を超えて使用すると、ホースの破裂や金具抜けを生じる原因となります。最高使用圧力またはそれ以下で使用してください。

エンジンを始動する

※搭載しているエンジンにより異なるタイプがあります。エンジンについては、付属のエンジンの取扱説明書に従ってください。

⚠ 警　告
・ エンジンの排気ガスには、死に至る有毒なガスが含まれています。室内や通気の悪い場所でエンジンを始動しないでください。 ☆排気ガスによる中毒事故の原因となります。

1. エンジンスイッチを「ON」にしてください。
2. 燃料コックを開けてください。
3. スロットルレバーを「高速」の方へ少し動かしてください。
4. チョークレバーを「閉」へ動かしてください。
5. スタータグリップを握り、いきおいよく引いてください。
6. エンジンが始動したら、チョークレバーを「開」へ動かしてください。

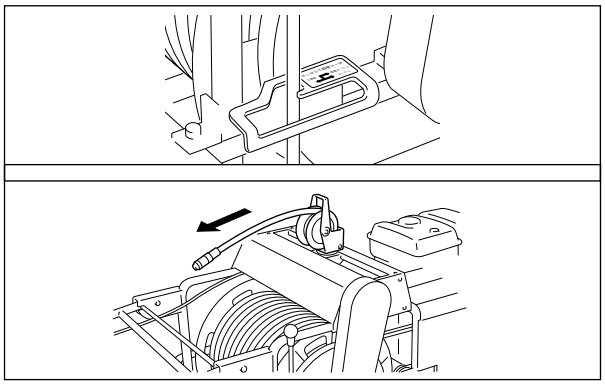
エンジンが始動したら

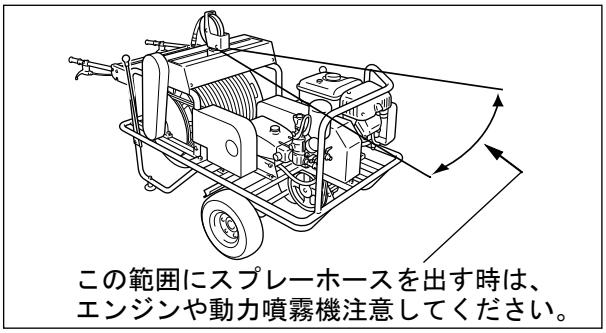
1. ポンプクラッチレバーを「入」にしてください。動力噴霧機が動きはじめます。
2. 動力噴霧機が動き、動力噴霧機内に薬液が循環します。余水ホースからいきおいよく薬液が出ているのを確認してください。
3. スロットルレバーでエンジの回転を調整してください。回転数を上げるときにはレバーを「高速」の方へ、下げるときには「低速」の方へ動かしてください。

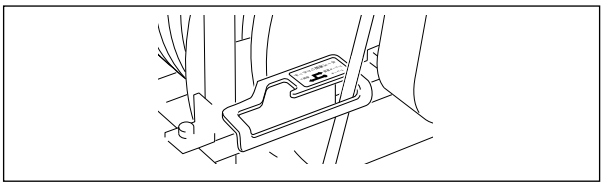
圧力を調整する

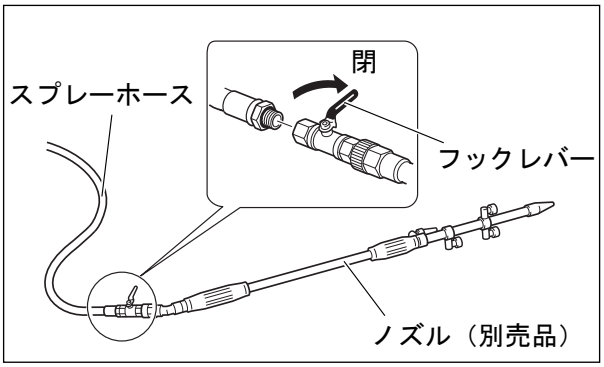
1. エア抜きコックを「加圧」位置に合わせます。
2. 必要な圧力まで調圧ダイヤルを回してください。　調圧ダイヤルのノッチは、
   1段目は 約1MPa（約10kgf/cm^2）で、
   2段目以降は 約0.5MPa（約5kgf/cm^2）です。

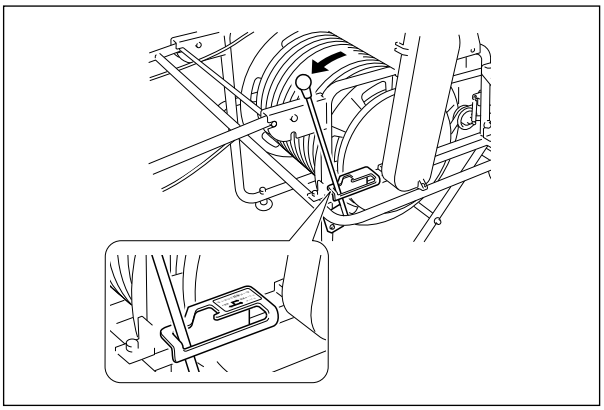
＊本製品の最高使用圧力は 4.0MPa（40kgf/cm^2）です。調圧ダイヤルのノッチは 4.0MPa 以上にはなりません。











スプレーホースを引出す

1. ホース巻取りレバーを「ブレーキ解除」の位置にします。
2. スプレーホースを手でゆっくり引出してください。いきおいよく引出すとホースリールに巻いてあるスプレーホースがたるむことがあります。
3. スプレーホースの引出し方向は 360° 可能ですが、エンジン・動力噴霧機方向への引出しは注意してください。スプレーホースがエンジンに接触して溶けることがあります。

散布作業をはじめる

1. ホース巻取りレバーを「ブレーキ」の位置にしておきます。ホースリールの不必要な回転を抑制し、スプレーホースのたるみを少なくします。
2. 散布コックを「開」の位置に動かしてください。散布を止めるときは、散布コックを「閉」の方へ動かしてください。

⚠ 注　意

・コックレバーはあらかじめ「閉」位置にして下さい。動噴の運転により生じる水流によってホースがあばれて、事故の原因となる恐れがあります

スプレーホースを巻取る

ホース巻取りレバーを「巻取り」の位置へ引いてください。

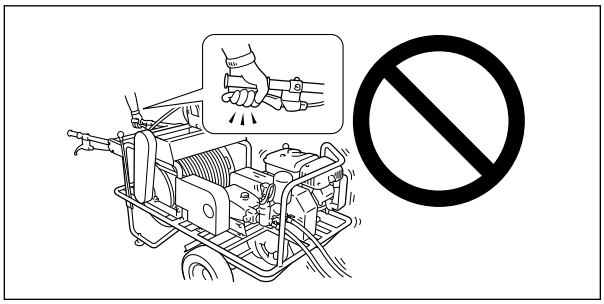
重　要

●巻取りのときは、スプレーホースに圧力をかけたまま巻取ってください。圧力を抜いて巻取ると、スプレーホースがつぶれて巻取られ、次に圧力がかかったときにホースリールが破損します。

●スプレーホースに異常な抵抗がかかったまま巻取りを行なわないでください。巻取り装置が破損します。

●スプレーホースの巻取は、ホース先端より約 3 mの所で停止するように心掛けてください。

●ホースリール下側にスプレーホースが弛んだまま巻取りをすると正常な並列巻取りができません。スプレーホースを手動で引き出して、弛みをなくしてから巻き取ってください。



⚠ 警　告

・ 散布作業中に、走行クラッチレバーを操作しないでください。
☆ 本機が走行し思わぬ事故につながります。

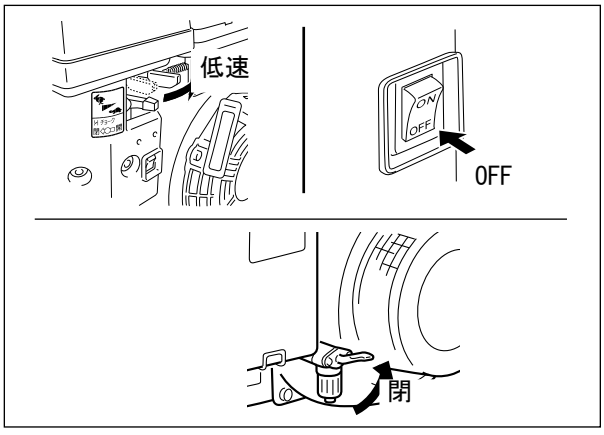
⚠ 注　意

・ 動力噴霧機やエンジンに絡み付いた草などを取除くときは、必ずエンジンを停止してください。
☆ 火傷やケガを負う原因となります。

重　要

● ホースが絡まったり、ねじれたりしないように気をつけてください。
● 専用の給水栓や貯水槽から吸水し、長時間使用するとエアチャンバの空気が水に溶け、抜けてしまうことがあります。動力噴霧機の故障の原因となりますので、2 時間毎に必ず吸水ストレーナを水から出し、余水ホースから水が出なくなるまで運転してください。





⚠ 警　告

・ スプレーホースの巻取時にはスプレーホースを身体にしばり付けないでください。
・ スプレーホースの巻取中は、並列巻装置が作動しています。触らないでください。
☆ケガや事故を起こす原因となります。

散布作業の停止

1. 手元のノズルのコックを閉めます。
2. 調圧ダイヤルを「始動」の位置に戻します。
3. 散布コックを閉めます。

作業が終わったら

1. 吸水ホースをきれいな水の中に入れて噴霧を行ない、動力噴霧機の内部、ホース、ノズルの清掃を行ないます。
2. 動力噴霧機内の水を抜くため、調圧ダイヤルを「始動」の位置にして、吸水ホースを水から出して余水ホースから空気が出るまで運転を続けてください。

重　要

● カラ運転の状態となりますので、5 分以上は行なわないでください。動力噴霧機の寿命を縮め、故障の原因となります。
● 冬期間水が凍結する恐れのある地域では、必ず水抜きを行なってください。

3. 運転中にプランジャ給油口からオイルを 10 滴ほど給油してください。
4. 吸水ストレーナを次回の作業のため、充分に清掃してください。
5. 本機の外側や走行タイヤに付いている薬剤、泥などの汚れた部分は、きれいな水で洗い流してください。

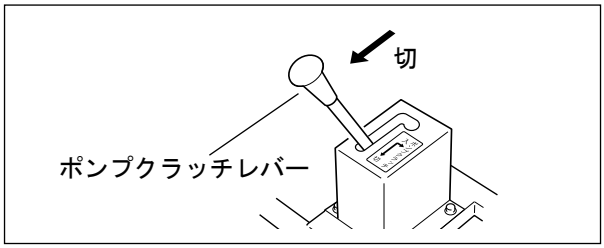
エンジンの停止

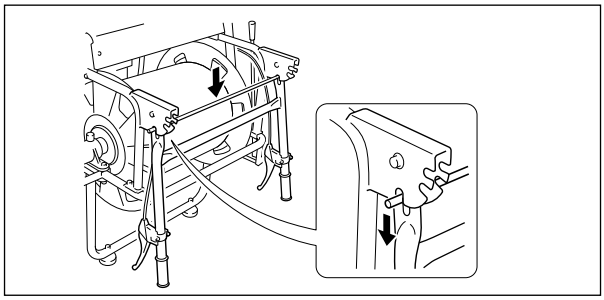
1. スロットルレバーを低速にします。
2. エンジンスイッチを「OFF」にしてください。
3. 燃料コックを閉じます。

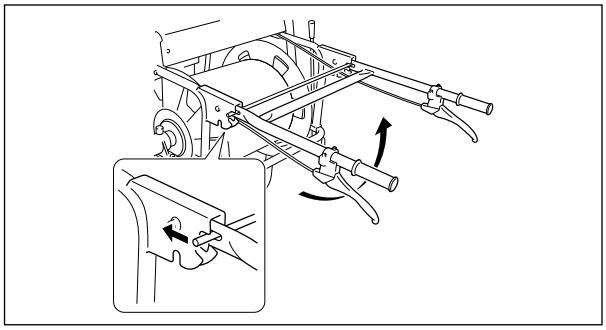
輸送・移動時の注意

⚠ 注　意

・ 製品の重量や大きさに見合った輸送車を使用してください。
☆ 事故の原因となる恐れがあります。
・ 製品はロープで固定してください。
☆ レバーブロックやチェーンブロックで固定すると機体が破損し、思わぬ事故の恐れがあります。

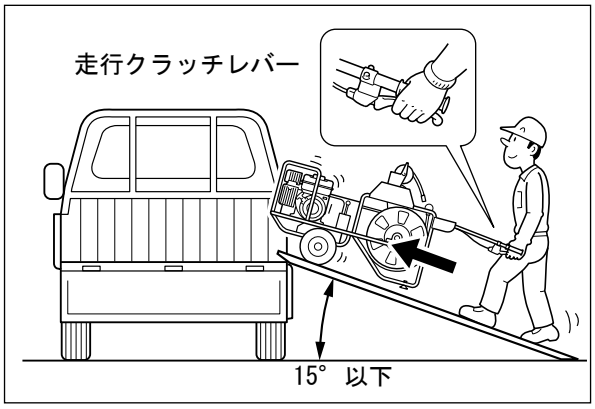






＜アユミ板の条件＞

幅	100 ㎝以上（2 枚合わせて使用可）
強　度	200kg 以上 （2 枚使用の場合、１枚 100kg 以上）
形　状	ハシゴ状で、本機の走行タイヤが間にはまり込むようなものは不可



本機を移動するときやトラックなどで輸送するときには、以下の点を守ってください。

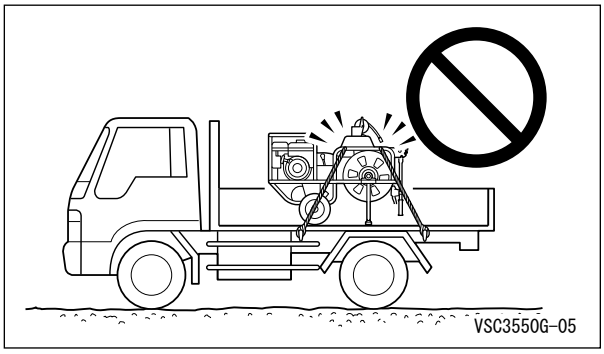
- ●使用後に輸送・移動するときには、エンジン、マフラが冷えるまで待ってください。
- ●長距離を輸送するときは燃料をカラにしてください。
- ●本機に衝撃をあたえないようにしてください。
- ●ポンプクラッチレバーを「切」にしてください。

積み込み

- ●最大積載量 200 ｋｇ以上のトラックを使用してください。
- ●平坦地でトラックのエンジンを停止し、タイヤに歯止めをしてください。
- ●ハンドル固定レバーを引いて溝から外してください。
- ●ハンドルを引き上げてハンドル固定レバーを上の溝に確実に入れてください。
- ●アユミ板の傾斜角度は 15°以下にしてください。また、アユミ板が確実にトラックの荷台にかかってはずれないことを確認してください。
- ●アユミ板の種類（ハシゴ状）によっては、負荷が大きすぎて登らないことがあります。
  その場合は、押すなどして補助してください。
- ●本機のエンジンを始動してください。（エンジンの始動方法 P13 参照）
- ●エンジンのスロットルレバーを低速にしてください。
- ●走行クラッチレバーを握り、低速・前進でゆっくり積み込みを行なってください。

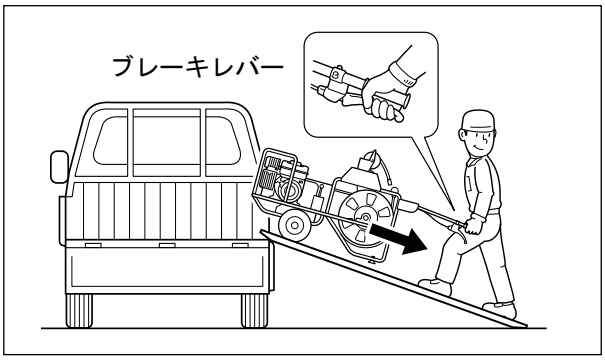
⚠ 注　意

・ ブレーキは簡易ブレーキですので、走行タイヤが濡れているとブレーキの効きが悪くなります。充分注意してください。



重　要
本機のリールフレームには絶対にロープ掛けをしないでください。

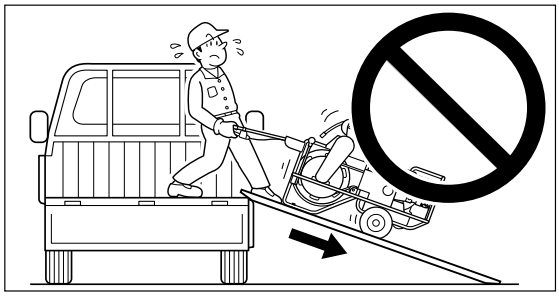
降ろすとき



●必ず本機のエンジンは停止してください。

●ブレーキレバーを握って、ブレーキを掛けたり、解除したりしながらゆっくりと後進で降ろしてください。

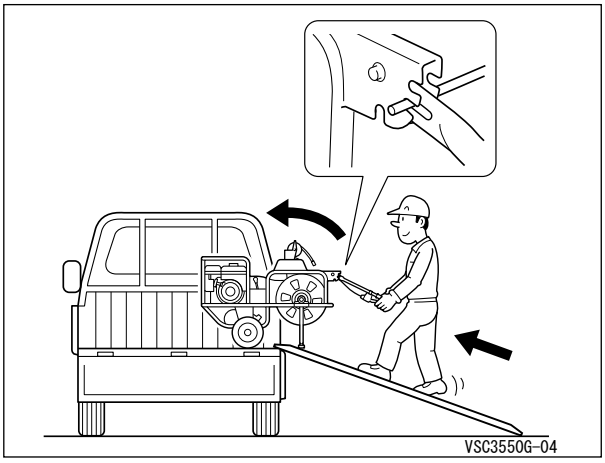
⚠ 注　意
・ ブレーキは簡易ブレーキですので、走行タイヤが濡れているとブレーキの効きが悪くなります。充分注意してください。



重　要
前進では、本機を降ろさないでください。

●降ろしている途中、走行クラッチレバーを操作しないでください。
プーリの溝にベルトが食い込み、本機が動かなくなる恐れがあります。

積み込みが困難なとき



●ハンドル位置が高すぎて積み込みが困難なときは、ハンドル固定レバーを中間の溝に入れると負荷が少なく、本機の移動・積み込みが楽に行えます。

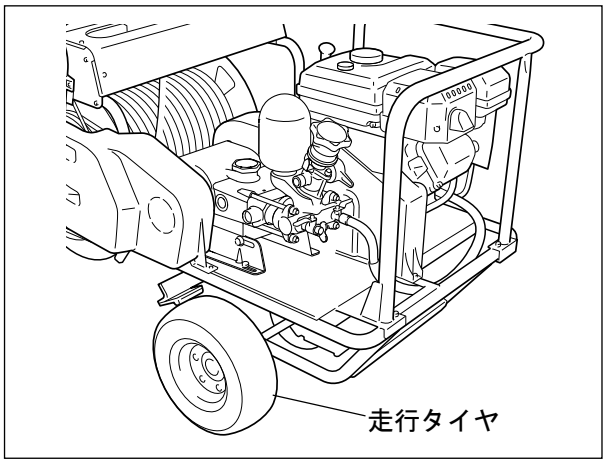
点検・整備

● 点検・整備は、充分な広さがあり、安定した場所で行なってください。
● タバコ、その他の火気は厳禁です。

部　品　名	整 備 内 容	整　備　時　期
トラバースカム軸	給油	20 時間使用ごと
駆動チェーン	給油	毎年
ホースガイド取付間筒	給油	20 時間使用ごと
ホースガイドローラ	給油	20 時間使用ごと
リール軸受	給油	適時
V ベルト	点検・交換	使用時期前
ホース類	点検・交換	使用時前

重　要

●動力噴霧機、エンジンの取扱説明書に従って各部品の保守・整備を行なってください。
●この表の期間に従って整備・点検を行なってください。ただし、実際の使用条件や使用回数により必要と判断した場合は、整備・点検の回数を増やしてください。
●毎月、毎年の整備・点検を行なった日付を記録してください。
● １年に１回以上は、お買い求めの販売店に、定期点検を依頼してください。

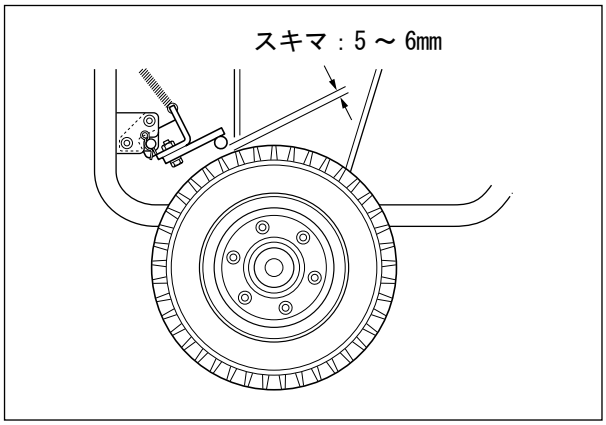


走行タイヤの点検

(6 ヶ月に 1 回行なってください)
以下の項目を点検してください。
●標準空気圧： 0.2MPa (2.0 Kgf/cm²)
●走行タイヤに損傷がないこと。
●ホイールボルトがゆるんでいないこと。

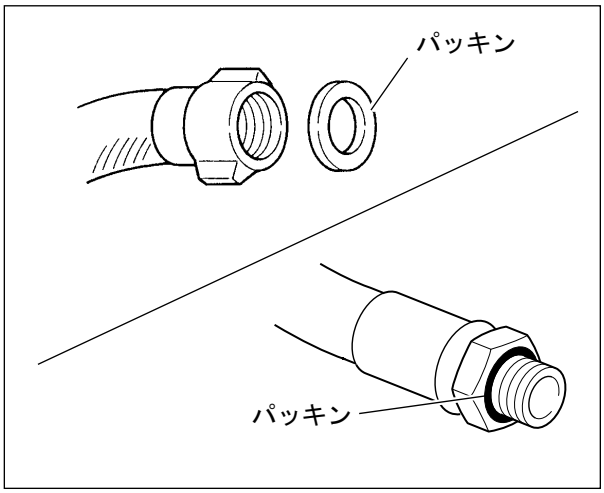
重　要

走行タイヤの空気圧が低いとブレーキの効きが悪くなります。シーズン前には必ず点検を行なってください。



ブレーキの調整・点検

(シーズン前に必ず点検してください)
片効きするようなときは、左右の走行タイヤとブレーキパットとのスキマが各々 5 ～ 6mm になるように調整してください。
①ブレーキパットを固定しているネジ 2 本をゆるめます。
②ブレーキパットを上下に動かして、適正スキマにします。
③適正スキマになった場所で、2 本のネジを締め、ブレーキパットを固定します。
④左右均等にブレーキパットが走行タイヤに当たるか確認します。

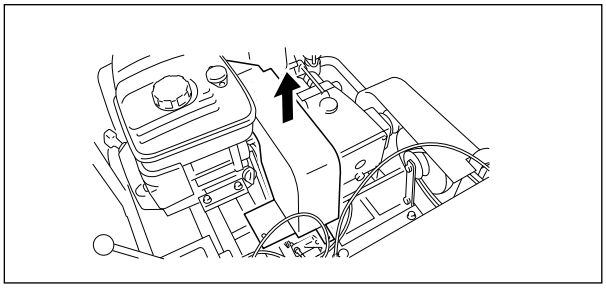


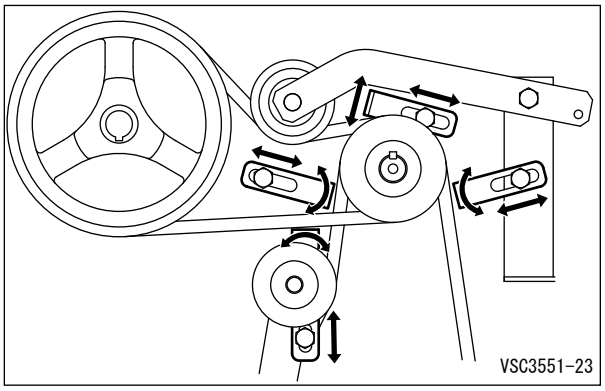
重　要

ホースは古くなるにつれ硬化し亀裂などが起こりやすくなります。
使用前にホースの点検を実施してください。

⚠ 警　告

・エンジンを運転したままでの調整は、絶対にしないでください。
☆回転部に巻き込まれ、ケガの原因となります。





ホース類の点検

(使用毎に点検してください)
吸水ホース、余水ホース、スプレーホースの外観、継手パッキンの点検をしてください。

⚠ 警　告

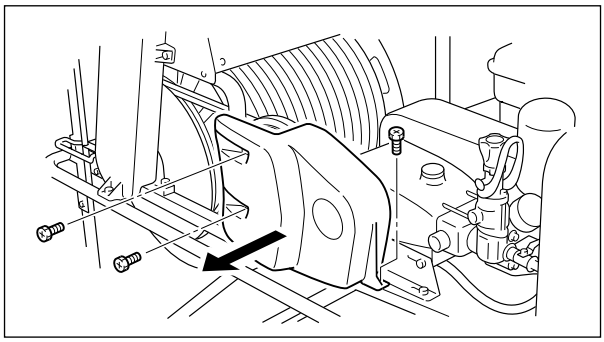
・ ホースのヒビ割れ、亀裂、摩耗、硬化など、または接続金具のズレ、ゆるみ、漏れなどが認められたときは、直ちに新品に取替えてください。薬液の被爆を受け、思わぬ傷害を受ける恐れがあります。
・ ホースは適正圧力範囲内で使用してください。
☆ホース破損や薬害事故を負う恐れがあります。

V ベルトの調整

● エンジンと動力噴霧機および走行変速機の間

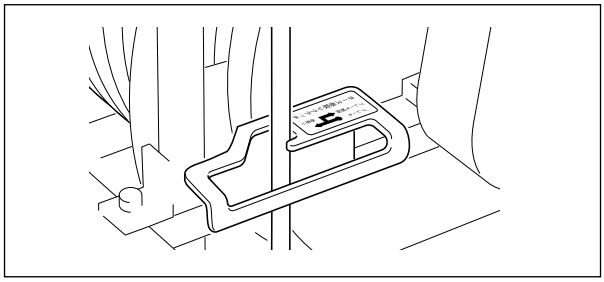
・ベルトカバーの取付けネジを外し、ベルトカバーを外します。
・エンジンプーリの周辺に 4 本のベルトガイド（長い棒 2 本・短い棒 2 本）がありますので、取付けているネジをゆるめて調整してください。
注： 長い棒は動力噴霧機ベルト用で、短い棒は走行ベルト用です。

①ポンプクラッチ、走行クラッチを「切」の状態にします。
②ベルトガイドのネジを少しゆるめます。
③エンジンのリコイルを引いて V ベルトの「つれ回り」がしなくなる位置にベルトガイドを調整します。
・ ベルトガイドをドライバやハンマなどで、上下・前後に少しずつ動かし調整します。
④ベルトガイドのネジを締付けます。
⑤エンジンを運転し、エンジン回転を変化させ V ベルトが「つれ回り」しないか確認してください。

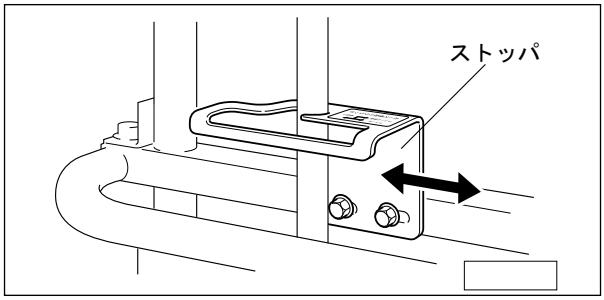


●ホースリールとクラッチプーリの間

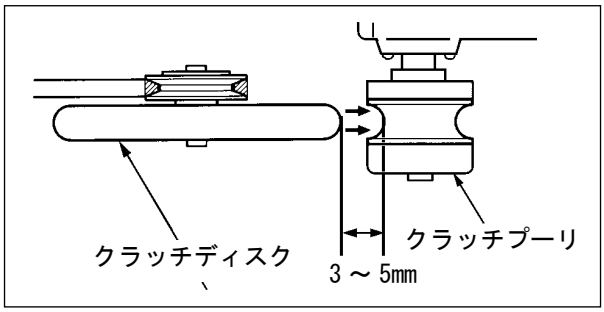
①クラッチカバーの取付けネジを外しクラッチカバーを外します。



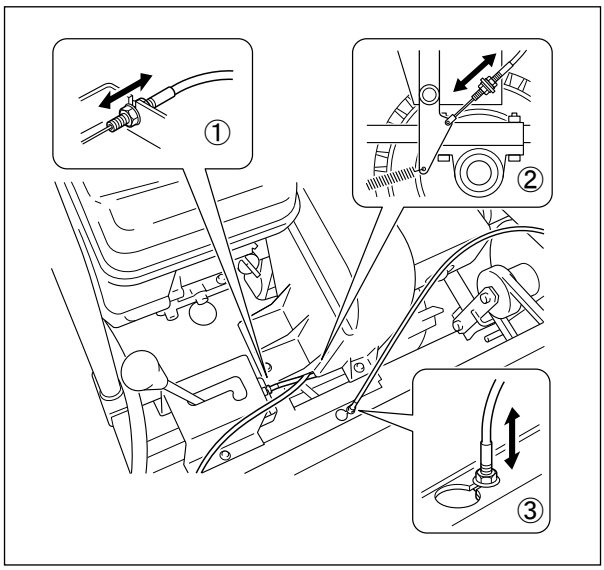
②ホース巻取りレバーを「ブレーキ解除」の位置にします。



③ストッパを取付けている 2 本のネジをゆるめ、クラッチディスクをクラッチプーリとのすき間を 3 ～ 5㎜ になるようストッパの位置を調整し、2 本のネジを締付けてください。



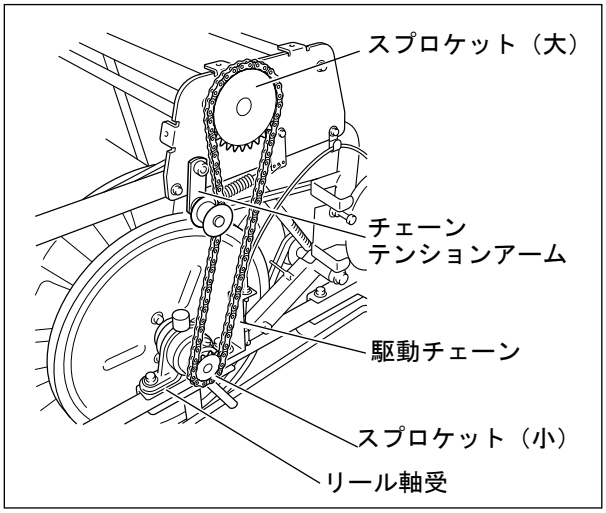
重　要
クラッチディスク、クラッチプリーの動力伝達部に砂やゴミが付着すると磨耗が促進します、こまめな清掃、調整を行ってください。



●クラッチワイヤの調整

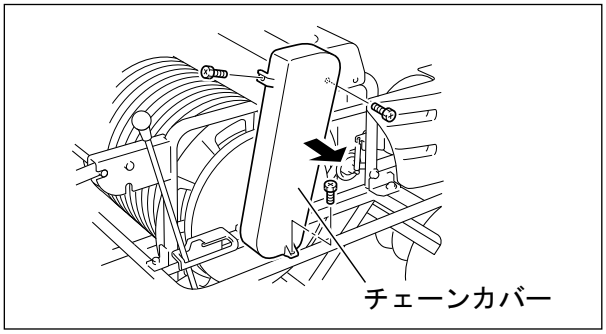
①ポンプクラッチ
②走行クラッチ
③ブレーキ

・各々のワイヤについて左図の調整部分を、操作レバーの「あそび」が無くなる所で固定してください。



各部の注油

点検・整備の表に従って注油を行なってください。



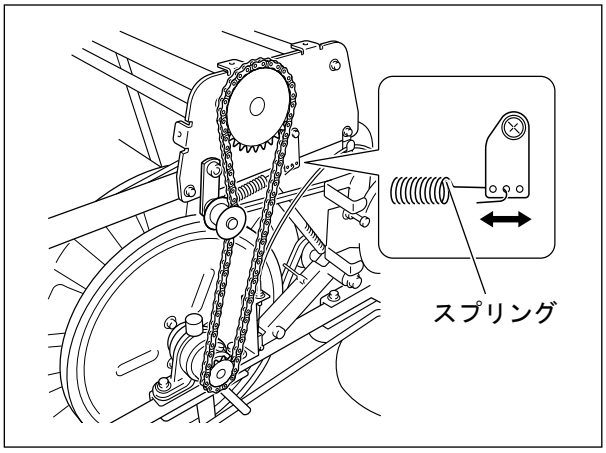
駆動チェーンの調節

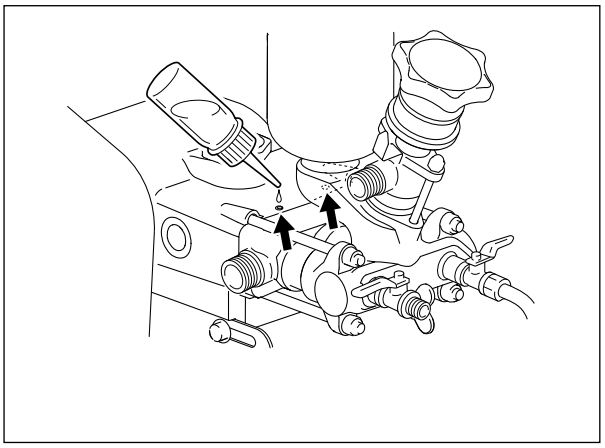
並列巻装置が作動しないときは、チェーンの張りを調節してください。

1. チェーンカバーを取外してください。

2. チェーンテンション用スプリングを引っ掛ける穴位置を変えて、駆動チェーンの張りを調節してください。

3. チェーンカバーを取付けてください。

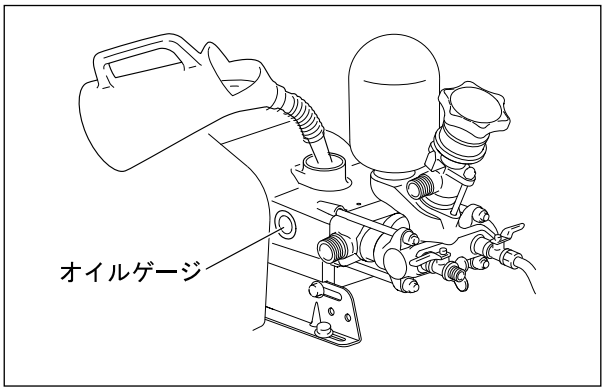




プランジャ部分の給油

(5 ～ 10 時間使用する毎に行なってください)

付属のオイラでプランジャ給油口から 10 滴ほど給油してください。

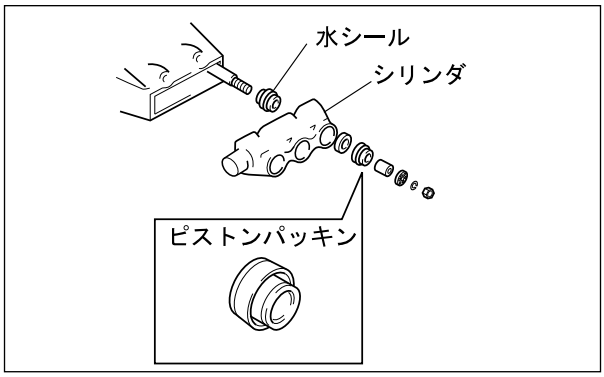


クランクケースのオイル交換

(最初は 50 時間使用した後に、それ以降は 100 時間使用する毎に行なってください)

クランクケースのオイルはSC、SD、またはSE 級、SAE ＃30 を使用して交換してください。

・規定量： レベルゲージ中央まで



ピストンパッキン・水シール

(使用時期前に点検してください)

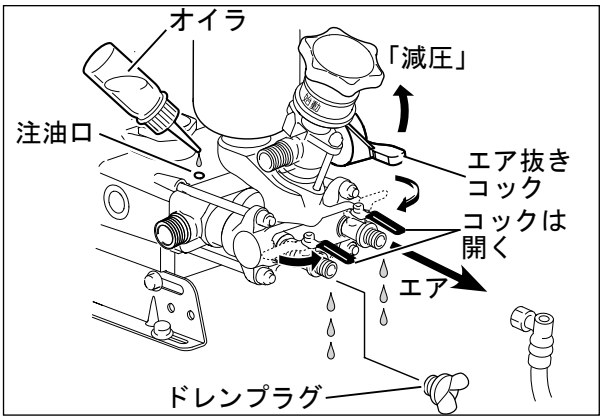
長時間使用し、吸水しなくなったり圧力が上がらなくなったときは、ピストンパッキン・水シールが摩耗してい可能性があります。シリンダを外し、ピストンパッキン・水シールを交換してください。

＊ ピストンパッキンおよび水シールは、交換の際に向きを間違えないでください。

保　管

⚠ 警　告

●燃料ガスが充満している密閉された場所や、裸火、火花のあるそばには保管しないでください。火災の原因となります。



製品を長期間にわたって保管する場合には、下記の手順で整備してください。

①きれいな水を数分間噴霧し、配管内部を洗浄しおてください。

②吐出コック下部のドレンプラグを外してエア抜きコックを始動（減圧）位置に合わせ､吸水ホースを水から出して１分間カラ運転して完全に水抜きしてください。

③運転中に注油口からオイルを 10 滴ほど注油してください。

凍結の恐れがある場合には、さらに次の操作を行なってください。

④吐出コック部のホース継手金具を外し、スプレーホースの端部からエアを吹き込み、スプレーホース内の残液を排出してください。

⑤凍結を防ぐためには、不凍液（又は自動車用ウインドウォッシャー液）に付属されている説明書を参照の上で、水と混合した液を充填してください。

重　要

●水抜きする動噴のカラ運転は 5 分以下としてください。カラ運転による破損は保証の対象外になります。

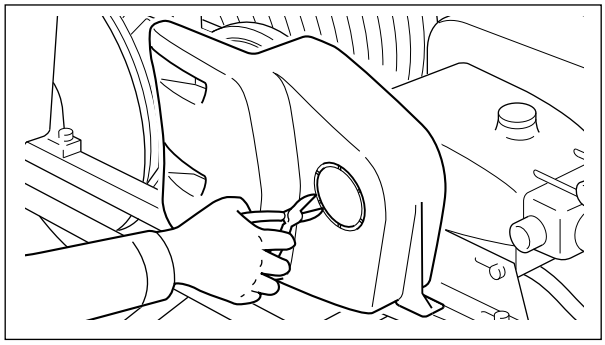
重　要
●寒冷時の凍結による破損を防ぐため、各部の水抜きを完全に行なってください。凍結による破損は保証の対象外となります。 ●環境汚染の原因になる恐れがあるので、仕様した不凍液は直接外部に廃棄しないで（不凍液に付属されている）説明書を参照して回収してください。 ●長期間使用しない場合には、送信機の乾電池を必ず取外してください。液モレにより送信機が故障する原因となります。

⑥本書の「点検・整備」の項（P18）に記載されている定期的な点検を行なってください。
⑦スクリュ、ナット類が締まっているか確認してください。
⑧製品を子供の手が届かないホコリの少ない乾燥した場所に保管してください。

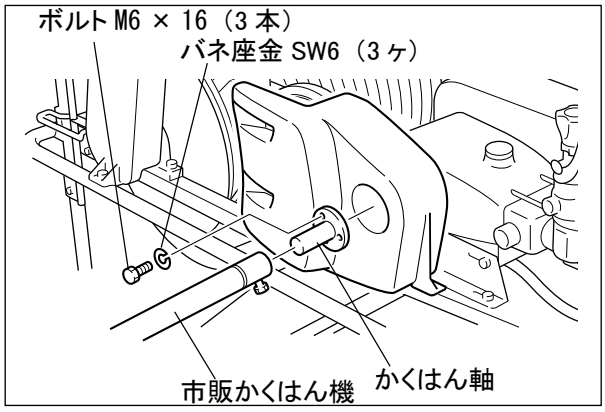
かくはん機を取付ける場合

セット内容	個数
かくはん軸	1
ボルト（M6 × 16）	3
バネ座金（SW6）	3

かくはん機は「右回転用」を使用してください。
市販のかくはん機を取付ける場合、かくはん取出し用の軸とボルト（オプション）が必要です。
かくはん軸セットの部品コード
：　P021 － 002510



●取付け方法
1. 本機リールベルトカバーのかくはん用動力取出し口部分をニッパーで切取ります。



2. かくはん軸をボルト M6 × 16（3 本）とバネ座金 SW6（3 ケ）とで、本機のポンプ軸端部へ取付けます。

3. 市販かくはん機をφ 19 用アダプタを使用して取付けます。（かくはん機の取付けは、かくはん機の取扱説明書をよく読んでください）

不具合と対策

●使用中に不具合が起きたときには、動力噴霧機、エンジンの取扱説明書、または下記表に従って点検・調査の上、対策を施してください。
●もし、不具合が起きたときには、下記表の対策で多くの場合は正常に戻ります。
万一、戻らない場合や、ご不明な点がありましたら、お買い求めの販売店にご相談ください。
お問い合わせの際は、その状況と合わせて「型式名」「機械番号」をお知らせください。

不具合事項	原　　因	対　　策
吸水しない、または途中から吸水しなくなった。	1. 吸水ホースの破損、または折れ。	破損していたら交換。折れていたら伸ばす。
	2. 吸水ホースとニップルとの締付不良、またはパッキンの脱落。	パッキンが入っていることを確かめてから充分締め直す。
	3. 吸水ストレーナの水面浮上がり。	浮上がらないよう固定する。
	4. 吸水ストレーナの周りにゴミ付着。	ゴミを取り除き清水でよく洗う。
	5. 吸・排水弁に砂、ゴミ付着。	よく洗い落とす。
	6. 吸・排水弁が磨耗している。	すり合わせ、又は新品と交換する。
	7. 吸・排水弁が固着して作動しない。	弁と弁座の合せ面をきれいに洗う。 よび水をする（P12 参照）
	8. 水シールが磨耗している。	新品と交換する。
	9. シリンダ､弁室の締付ナットゆるみ。	ナットを交互に増し締めする。
	10. 調圧ダイヤル、エア抜きコックが加圧状態のまま。	調圧ダイヤルを戻し、エア抜きコックを「始動」（減圧）位置に合わせる。
余水から気泡が出る。	1. 吸水ホース取付ネジのゆるみ。	パッキンが入っていることを確かめてから、充分締め直す。
	2. 吸水ホース用パッキンの磨耗･損傷。	新品と交換する。
	3. 吸水ホースに穴があいている。	新品と交換する。
	4. シリンダ､弁室の締付ナットゆるみ。	ナットを交互に増し締めする。
	5. 水シールの磨耗。	新品と交換する。
圧力が上がらない。	1. 調圧弁、弁座の合せ面にゴミ付着。	よく洗い落とす。（弁座は表・裏の両面とも使用できます）
	2. 調圧弁、弁座の磨耗。	新品と交換する。
	3. ノズル噴霧量が多く余水がない。	全吐出量の 10%以上を余水へ戻すようノズルを交換する。
	4. ピストンパッキンの磨耗。	新品と交換する。
	5. エア抜きコックが「始動」位置。	エア抜きコックを「加圧」位置にする。
	6. エア抜きコック弁座の磨耗。	新品と交換する。
圧力の変動が大きい。	1. 吸水ストレーナの周囲にゴミ付着。	ゴミを取り除き清水でよく洗う。
	2. 吸水ホースが折れている。	折れを直す。
	3. 吸・排水弁の変形・損傷。	分解して点検交換をする。
	4. 調圧弁・弁座にゴミ付着。	よく洗い落とす。
	5. 調圧弁・弁座の損傷。	すり合わせ、又は新品と交換する。
	6. Ｖベルトがスリップしている。	ベルトを張りなおす。
	7. エンジンの回転にムラがある。	エンジンを調整する。
	8. 空気を吸込んでいる。	ホース金具を締め直す｡パッキンを確認する。

不具合と対策（続き）

不具合事項	原　　因	対　　策
	9. エアチャンバ内の空気が抜けきってエアクッションがなくなっている。	吸水ストレーナをタンクから取出し、余水ホースから水が出なくなるまで空気を吸わせる。
	10. ピストンパッキンの磨耗・破損。	新品と交換する。
	11. 圧力切替コック弁座の磨耗。	新品と交換する。
圧力を調整したのち噴霧を始めると圧力の降下が激しい。	1. 下記のいずれかが原因で余水量が吸水量の10%以下（吐出過多） a) 動噴回転数が不足している。 b) 噴口が磨耗して噴霧量が多すぎる。 c) 噴頭数が多すぎる。	 a) 回転数を上げる。 b) 新品と交換する。 c) 数を減らす。
	2. 調圧弁抑えの動きが悪い。	分解して掃除をする。
	3. 調圧弁、弁座の磨耗。	新品と交換する。
クランク室内で異常な音がする。	1. 連接棒の締付ボルトがゆるんでいる。	増し締めする。
	2. プーリーとキーとにガタがある。	交換する。
	3. クランク室内の部品の脱落破損。	点検補充、または交換する。
	4. ベアリング破損。	新品と交換する。
クランク室内に薬液が入る。	1. プランジャ用オイルシール不良。	新品と交換する。
	2. プランジャの不良。	新品と交換する。
圧力は下がらないが、余水量が多くノズルから出る量が少ない。	1. 吐出またはスプレーホースが長すぎる。	ホースを短くする。
	2. 吐出またはスプレーホースが細すぎる。	ホースを太くする。

●製品や部品を廃棄するときは、お買い求めの販売店に相談するか、自治体の指導に従ってください。

仕　様

項　　目		単　位	VSC357G-8B
長さ×幅×高さ		mm	1575（1185）× 700 × 915
			（ ）内はハンドル折りたたみ時
質量（乾燥）		kg	110
動力噴霧機	型　　式	--	SP357
	回 転 数	rpm	830
	常用圧力	MPa（kgf/cm^2）	4.0（40）
	吸 水 量	L/min	23.5
エンジン	型式	--	GB131LN
	排気量	mL	126
	最大出力	kW（PS）	3.0（4.2）
	燃料	--	自動車用無鉛ガソリン
	始動方式	--	リコイルスタータ
スプレーホース		Φmm × m	8.5 × 100
リール駆動方式		--	摩擦車クラッチ
走　行　速　度		m/s	0.35 ～ 0.84（エンジン回転数により可変）

この仕様は予告なしに変更することがあります。

メ モ

株式会社やまびこ

〒 198-8760 東京都青梅市末広町 1-7-2
TEL　　:0120-176-181(製品・技術的な問い合わせ)
受付時間:弊社営業日　9:00～12:00 / 13:00～17:00

やまびこジャパン株式会社

〒 198-0025 東京都青梅市末広町 1-7-2
TEL　　:0428-32-6181 (代)

ご用命の際はお買い上げいただいた販売店へご連絡ください。

X753-008602
X753615-5603　　2507A 0477ES

© 2021 株式会社やまびこ　著作権法により無断での複製、転載などは禁止されております。